

みずほCustomer Desk Report 2018/08/01 号(As of 2018/07/31)

国際為替部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	111.00	1.1708	129.96	1.3138	0.7409
SYD-NY High	111.96	1.1746	131.15	1.3173	0.7441
SYD-NY Low	110.75	1.1683	129.71	1.3089	0.7405
NY 5:00 PM	111.88	1.1691	130.75	1.3126	0.7429
NY DOW	25,415.19	108.36	日本2年債	-0.1200	0.00bp
NASDAQ	7,671.79	41.78	日本10年債	0.0500	▲5.00bp
S&P	2,816.29	13.69	米国2年債	2.6715	0.81bp
日経平均	22,553.72	8.88	米国5年債	2.8471	▲0.34bp
TOPIX	1,753.29	▲14.86	米国10年債	2.9608	▲1.30bp
シカゴ日経先物	22,640.00	150.00	独10年債	0.4410	▲0.45bp
ロンドンFT	7,748.76	47.91	英10年債	1.3295	▲1.25bp
DAX	12,805.50	7.30	豪10年債	2.6665	1.45bp
ハンセン指数	28,583.01	▲150.12	USDJPY 1M Vol	6.60	▲0.93%
上海総合	2,876.40	7.35	USDJPY 3M Vol	7.13	▲0.50%
NY金	1,233.60	2.10	USDJPY 6M Vol	7.50	▲0.38%
WTI	68.76	▲1.37	USDJPY 1M 25RR	-0.78	Yen Call Over
CRB指数	194.53	▲1.22	EURJPY 3M Vol	7.63	▲0.20%
ドルインデックス	94.49	0.17	EURJPY 6M Vol	8.06	▲0.25%

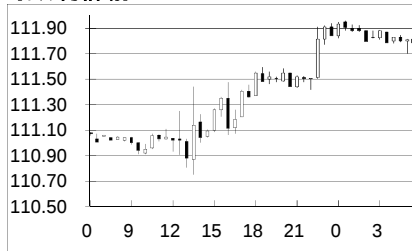
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
7月31日	-	日銀金融政策決定会合 10年国債金利の操作目標	0.00%	0.00%
-	-	日銀金融政策決定会合 当座預金政策金利	-0.10%	-0.10%
-	-	黒田日銀総裁 記者会見	「金利水準が切り上がる事を想定していない」	
18:00	欧	CPI予想/CPIコア(前年比)	7月 2.1%/1.1%	2.0%/1.0%
18:00	欧	GDP(1次速報、前期比/前年比)	2Q 0.3%/2.1%	0.4%/2.2%
21:30	米	個人所得/個人支出(前月比)	6月 0.4%/0.4%	0.4%/0.4%
21:30	米	PCEコアデフレーター(前月比/前年比)	6月 0.1%/2.0%	0.2%/2.0%
23:00	米	コンファレンスボード消費者信頼感指数	6月 127.4	126.0

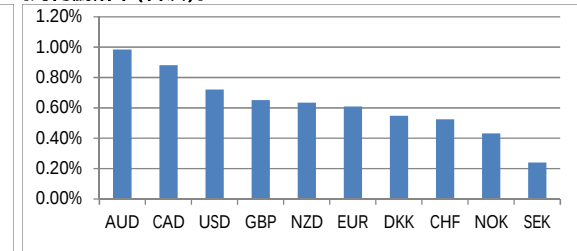
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
8月1日	16:55	独 マークイット製造業PMI・確報	7月 57.3	57.3
	21:15	米 ADP雇用統計	7月 186k	177k
	22:45	米 マークイット製造業PMI・確報	7月 55.5	55.5
	23:00	米 ISM製造業景況指数	7月 59.3	60.2
8月2日	03:00	米 FOMC政策金利(上限)	- 2.0%	2.0%

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	111.20 - 112.50	1.1620 - 1.1740	129.60 - 131.30

【マーケットインプレッション】

昨日の海外市場でのドル円は堅調推移。一部で期待感が出ていた日銀の出口政策早期化観測が否定されたことで円売り優勢地合いが続く中、米中貿易摩擦問題を巡る協議再開が検討との報道や米経済指標が堅調な内容となったこと等も相俟ってドル円は111円台後半まで上昇。本日のドル円も昨日からの流れを引き継ぎ底堅い展開を予想する。日銀出口観測が否定されたことで特段の円買い材料にも乏しい状況下、引き続き堅調な米経済を背景がドル円相場のサポート材料。また、本日は米FOMCを予定しているが、9月利上げが基本線となっている中、こちらはノンイベントが予想されており、市場への影響は限定的となると考えている。

アジア	東京時間のドル円は111.00レベルでオープンした後、日銀金融政策決定会合の結果発表を控えて方向感に欠ける推移に。様子見ムードが高まり流動性がやや低下する中で、目立った新規材料のない中で一時111.25まで上昇するもすぐに111.11附近に値を戻した。その後、日銀金融政策決定会合において、政策金利のフォワードガイダンスを導入することを決定するとともに、長期金利を「経済・物価情勢などに応じて上下にある程度変動しうるものとする」となどを決定。この発表を受けドル円は瞬時111.31をつけた後、110.75まで下落する慌しい動きとなったが、次第に上昇基調となり一時111.44まで上昇。その後も底堅い推移が継続し111.35レベルで海外へ渡った。(東京15:30)
ロンドン	ロンドン市場のドル円は111.35レベルでオープン。日銀の決定は従前高まっていたほど引締め方向の内容ではなく、円売りが進行し一時111.59まで上昇すると次第にその近辺での狭い値幅に落ち着き111.52レベルでNYに渡った。ユーロは1.1713レベルでオープン。朝方発表の独6月小売売上高が予想を上回ったことでユーロに買いが入る。その後発表されたユーロ圏第2四半期成長率が予想を下回ったものの、ユーロ圏7月インフレ率が予想を上回る強弱入り混じる結果にはほぼ反応がなく終始上昇トレンドで一時1.1744まで上昇した後、1.1736レベルでNYに渡った。(ロンドン・ルフィ 00531 444 179 神田)
ニューヨーク	日銀金融政策決定会合は、長期金利が現在の倍程度の変動が想定され、政策金利のフォワードガイダンスの導入が決定され、海外市場でドル円は乱高下する局面もあったものの、その後はイベントを消化し円が売られる展開に、ドル円は111.59まで戻し、111.52レベルでNYオープン。朝方は、米6月個人所得・支出が予想と一致する一方、第2四半期雇用コスト指数、並びに6月PCE3P(前年比)が予想を下回り、ドル円は111.42まで下押しする。しかし、その後は特段ニュースが見当たらない中、月末締め分のドル買いと思われる7月-から、ドル円は111.96まで上昇。しかし112円を上抜けすることができず、午後は明日のFOMC結果発表を控え狭いレンジでの推移が続き、111.88レベルでクローズした。一方、ユーロはユーロ圏7月CPIが予想を上回り、海外市場で1.1744まで戻し1.1736レベルでNYオープン。朝方は一旦1.1746まで上昇するが、このレベルでは売り意欲も強く、月末締めと思われるドル買いが強まったこともあり、1.1707まで下落する。1.1727まで戻す局面もあったものの、再びドル買いが優勢となり1.1689まで反落する。終盤に掛けては、1.17ちょうど付近での閑散な推移が続き、1.1691レベルでクローズした。(NY井上)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 鶴田・森谷